

## International Organization for Migration (IOM)

### Thailand Office

国際移住機関 タイ・オフィス



---

IOM International Organization for Migration

#### 【内容】

1. 業務内容報告（12月10日～1月17日）
2. 目標に対する今月の進行具合
3. インターンシップ・プログラムを終えて

東京外国語大学

博士前期課程 総合国際学研究科 国際協力専攻1年

田村銀河

<派遣先機関基本情報> (※詳しくは第一回報告書を参照)

|       |                                                                                                 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 派遣先機関 | 国際移住機関 (IOM, International Organization for Migration)<br>タイ・オフィス (バンコク)                        |
| 派遣先部署 | 難民の第三国定住支援プログラム (Refugee Resettlement Programme)<br>日本への定住支援プロジェクト (Japan Resettlement Project) |
| 派遣期間  | 2011年7月19日～2012年1月18日                                                                           |

## 1. 業務内容報告 (12月10日～1月17日)

<タイ洪水被害への支援>

12月1～2週にかけて、バンコク周辺では急激に洪水が引いていき、事態が収束に向かっていった。しかしマラリア・デング熱等の蚊を媒体とした病原菌は水が引いて以降の2～3週間で増殖すると言われ、他の面でも引き続き警戒が必要となった。

### 【赤十字との支援物資配給 (先月より継続)】

先月より継続し、タイ赤十字と共同で支援物資の配給活動が続き、継続して調整役を担っている。12月23日の配給を最後に、全体で12か所、合計2,500の赤十字キットを配り終えた。受給者はビルマ人、カンボジア人、ラオス人にタイ人を含め、6000人以上に昇った。

### 【健康・衛生面での被災者支援】

12月12日より、ドイツ政府支援のプロジェクトである、新しい支援作業がスタートした。今回は移民を中心とした被災者に対し、衛生用品、蚊帳などの蚊対策キット、家庭用医薬品キット、幼児キットなどを配布するとともに、人が集中する避難所などには浄水器、消毒用アルコールを配布する。また通訳スタッフだけでなくナースも同行し、健康・衛生面に関するアセスメント、治療・検診サービスも行う。この配給作業の実施面でのスケジュール決定や物資管理などの役割も任せてもらい、半月の間に合計して9000個ほどのキットを移民コミュニティ、タイ人ムスリムなどのマイノリティ・コミュニティを中心に配布した。配布面でも前回の赤十字のプロジェクト同様にほぼ参加し、現場の様子も知ることができた。

また、インターンの最終勤務日は当初は1月13日の予定であったが、支援物資の一部を南部の洪水被害地区にあてることになり、勤務を17日まで延期し、17日にチームと共に三部のナコン・スリタマラート (Nakhon Sri Thammarat) 県に飛んだ。(インターン契約は書類上月末31日までとなっていたので、契約上の問題はない。) 初日は現地NGOとのミーティングと共同での視察、スケジュール決定であり、二日目の物資到着以降が配給作業であ

ったが、私は17日の深夜便での帰国だったので、初日だけ参加し、夜の便でバンコクに戻る日帰りでの参加となった。二つの災害現場を見れたことと共に、初めてタイ南部をこの機会に訪れることができた。



(ナコン・スリタマラート県は南部の被害地域マップのうち、上方の黄色部分)



(↑ Nakhon Sri Thammarat 県洪水エリアの様子)

#### 【洪水支援のフィードバック会議】

国連機関全体での洪水対策の Lesson Learned のための会議が2月上旬に設定されたことに伴い、IOM 内でもインターナルにこれまでの振り返りのために会議が設定された。そこで現場に訪れたものとして意見を述べるとともに、支援物資配給の際の注意点などを文書の形にして残した。



(↑ 赤十字スタッフと配給作業の後で。左端が筆者)

<その他業務>

【Project Proposal 作成のアシスタント】

直属の上司が作成しているプロジェクトの企画書の執筆をアシストできることとなった。内容としてはインターネットから文書を探し、現状分析の内容をさらに付け加えることなど初歩的なことだが、一つのプロジェクトがドナー間や IOM 内部での協議から企画・執筆・決定の流れを目の当たりにすることができ、非常にいい経験となった。

【不法移民拘留所の視察】

タイ政府内務省が管轄する Immigration Office が運営する不法移民拘留所 (Immigration Detention Center) はオフィスの比較的近くにあり、ここでも IOM はデイケアなどの活動を行っている。ちょうど改築工事のプロジェクトのためにタイ人の同僚が頻繁に通っていたため、上司にも OK をもらい、同行した。内部は写真などで見るように収容所といった感じであり、拘留者の様子も間近で見ることができた。

2. 目標に対する今月の進行具合

|                         |                                                                                                                         |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 難民問題への包括的理解             | 難民制度などミクロな理解は進歩していないが、移民と難民の現状や、ミャンマーの政治的变化に合わせたタイ側での議論など、包括的な理解につながった。(9点)                                             |
| 職場内や関係各所との人脈形成          | 特に新しい出会いはなかったが、帰国間際には職場のスタッフが送別会を開いてくれたり、オフィスの日本人スタッフ、大使館のカウンターパートの方、日系メディアの方からお食事をごちそうになったりと、これからの関係につなげることができそうだ。(8点) |
| さらなる語学力の向上と基礎的な業務スキルの取得 | 12月の業務で忙しい時期に続き、1月も荷物の整理などでまとまった時間を設けて語学やスキル向上につなげることができなかったのは残念だ。タイ語・ビルマ語など、帰国以降に取り組みたい。(6点)                           |
| 論文作成に必要な資料の収集           | 上司がミャンマー情勢に詳しいので論文の相談をし、日本や欧米の研究者の名前を紹介してもらった。バンコク内の移民研究所などは結局時間がなく、訪れることができなかった。(7点)                                   |

|             |                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学院後のキャリアパス | <p>幸いなことに、この六か月のインターンの成果にはよい評価をもらえた。そして自分は他の国際機関を知らないが、国際機関でありながらもフットワークが軽く、現場に近い IOM にかなり魅力を感じた。しかし院卒業後に就職経験なしでコンサルタントから契約を伸ばしながら残るのも手ではあるが、やはり就職経験を積み、JPO にアプライするのが最も得策のようである。ここ 10 年でどれだけのキャリアが積めるかが勝負なのだろうと実感した。(8 点)</p> |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 3. インターンシップ・プログラムを終えて

まず以下の二点で私は幸運で、有益な六か月を送ることができたと考える。

一つはバンコク事務所に派遣されたこと。ジュネーブなどドキュメンテーション等事務作業が主な職場とはかけ離れ、フィールドに近い一方で東南アジアの中心地であり、IOM のアジア太平洋地域事務所など、多くの機関や企業の拠点が集まる。ミクロだけでなく東南アジアの中でのマクロな動きも抑えることができた。さらに日本と文化的にも近いことから食生活など日常には全く問題がなく、職場のタイ人スタッフとも親しく打ち解けることができ、業務も円滑にこなすことができた。

もう一点は、仕事内容にも恵まれた。最初に取り組んだ日本に向けた難民のプログラムは自分が日本語話者であることから調整役として楽に仕事を進めることができた。さらに後半の洪水支援は自分の東日本大震災のボランティア経験を踏まえることもでき、積極的に取り組むことができた。その結果、インターン終了の際の評価書には高い評価をいただくことができた。

そしてこれからの自分の課題として、以下の二点を挙げたい。

まずは業務スキルの部分であるが、英語でのライティング能力の向上が求められる。私は英語の環境にこれまで身を置くことがなかったため、英語圏出身者や帰国子女に比べると英語力はやや劣る。会話においてはこの半年で上達することができたと感じる一方、やは

り筆記力を伸ばすにはさらに努力と経験が必要であることが実感させられた。読書だけでなく記述等、英語の環境により長く身を置く必要がある。

そして業務内容であるが、半年を終えて IOM の業務の中で自分が将来携わる魅力を感じた分野は、現場での業務以外に、プロジェクトを企画することである。ひとつのプロジェクトの企画はアイデアからスタートし、現状分析に必要なデータの収集、現地での調査、予算の作成、プロジェクト自体のコンテンツ決めを行っていくのだが、その際には現地理解と創造力を必要とする。その中でドナーとの関係づくり、プレゼンテーション力も求められる。「そのような業務遂行能力を 30 代までに身につけるには」と、これからの将来設計を考えるうえでの具体的な課題を発見することができたことも、この半年間の大きな成果であると考えている。

最後に、この半年間の経験は宇野教授をはじめとするプログラム関係者のサポートに始まり、温かく迎えてくれた IOM タイ事務所のスタッフ、そしてプログラムの上司である Hans 氏、直属の上司である伊藤氏の優しさと指導力なしには得ることのできなかったものであり、ここに深く感謝したい。

2012 年 1 月 19 日

冬の東京より、バンコクの暖かさが早くも恋しくなるなか



(夕陽に染まるチャオプラヤ川)